

## 第2章 御幸公園の梅林（小向梅林）

### 1 小向梅林の位置

江戸時代から明治22（1889）年の市制・町村制施行までの橋樹郡小向村は、現在の小向、小向町、小向東芝町、小向仲野町、小向西町、東古市場の一部にわたる範囲になりますが、梅林は主に河川敷である現在の小向が中心でありました。

現在の河川敷には、川崎ゴルフ練習場や少年野球場、川崎競馬場小向厩舎在厩馬練習場などが所在しています。



フランス式彩色図 明治14（1881）年

航空写真 平成27（2015）年



「迅速測図復刻版」（一部着色）（財）日本地図センター発行  
：（川崎地名研究所所蔵）

市撮影航空写真



## 2 小向梅林の歴史

### (1) 暴れ川多摩川

多摩川は急流河川で、洪水のたびにその流れを変え、現在に近い流路になったのは、16世紀末の大洪水のときとされています。

江戸時代には、平均6年に1回の割合で洪水が発生し耕地等に損害が出ていましたが、慶長16(1611)年に二ヶ領用水が完成したことで、川崎市域の耕地面積は飛躍的に増加しました。小向村では耕地面積は変わらず、多摩川沿いでは依然として洪水に見舞われている状況でした。

### (2) 梅の生産地

梅の木は多少の浸水であれば耐えられることから、小向村では江戸時代の寛文年間(1661~1672)ごろに換金作物として植えられました。

明治初期には、塩漬け(梅干し)として加工した物は東京及び横浜の漬物屋へ、青梅は東京本所の青物市場や横浜青物市場へ出荷されていました。

### (3) 観梅の名所

観梅の名所として小向村を有名にしたのは、明治13(1880)年2月に、「朝野新聞」紙上に成島柳北が「小向村探梅ノ記」を連載したことがきっかけで、大きな反響を呼び、その後の同紙面において、多くの歌人、文人が相次いで寄稿しました。このことによって、これまでは梅の実を生産して市場へ出荷するのみであった小向村が、一躍、梅の名所として有名になりました。

「小向村探梅ノ記」を要約すると、「新橋からそう遠くないところに一大香の世界あり。小向は一村すべて梅である。人は杉田の梅を称賛するが、杉田の梅はそれほど多くなく点在している。小向は、梅の林が群生し幾重にも続いており、開花の時期にはそれが白雲のように見える。」と記載されており、当時の小向梅林の規模や様子がうかがえます。

### (4) 明治天皇の行幸

明治17(1884)年3月19日、明治天皇は徳大寺侍従長や山縣参議を始めとした30余名の地位の高い官職を伴い行幸されました。到着後の明治天皇は、梅林内の「奥山榎本」(茶店)に作られた御野立所の玉座で御観梅、御小宴されました。その場所は「玉殿跡」と呼ばれ、梅林の中の名所となりました。



「小向行幸供奉人名」(市民ミュージアム所蔵)



扁額「玉殿跡」（市民ミュージアム所蔵）



盃「行幸廻梅」（市民ミュージアム所蔵）  
行幸を記念して茶店「奥山榎本」で作製

### (5) 梅林の盛衰

小向の梅は、江戸初期に小田原から運ばれ植樹された<sup>(※1)</sup>との言い伝えがあり、一時約30町歩（約30ha）を占めるまでになりました。

明治初期に20町歩（約20ha）あった梅林は、明治4（1871）年の洪水によって、7町歩5反（約7.5ha）まで減少してしまいました。

明治天皇の行幸時の梅林は、7町歩5反、（東京ドーム約1.5個分）の広さの梅林でした。



『神奈川県橘樹郡案内記』より



『川崎市史 通史編3』より

このように有名な梅林でしたが、多摩川の洪水や梅が老木となることにより縮小を余儀なくされました。明治37（1904）年ごろ、残った梅の木についても実が結ぶことが少なくなり伐採されるところを、それを憂いた原三溪により、700本が横浜本牧の三溪園に移植されました。

※1 小田原の梅は歴史が古く、戦国時代の武将、北条氏が統治していた以前から梅の栽培が行なわれており、江戸時代には「東海道中膝栗毛」などに梅漬が小田原の名産品として登場しています。



撮影：小串嘉男

（昭和26（1951）年 御幸公園の梅林・乗馬）

## (6) 行幸の碑

明治天皇の休憩をとった場所（玉殿跡）には、昭和6（1931）年に「明治天皇臨幸御観梅跡碑」が増山周三郎<sup>（※2）</sup>らによって建立されています。向かって右面に「明治十七年三月十九日行幸」、左面に「侍従長海軍大将鈴木貫太郎書」、裏面に「川崎市増山周三郎建之」と彫られています。



撮影：小串嘉男（昭和26（1951）年 御幸公園の梅林、明治天皇観梅の碑）

※2 増山周三郎は、川崎の最初の近代工場である「御幸煉瓦製造所」の2代目工場主であり、橋樹郡郡会議員・御幸村村会議員、市制になってからは市会議員にも選ばれ、御幸小学校の建築費用等も寄附しています。



（昭和56（1981）年建立 ロータリークラブ寄贈）

明治天皇観梅の碑の横に建てられた御幸梅林（小向梅林）説明板



（昭和15（1940）年建立 明治天皇行幸之蹟碑）

明治天皇行幸の際に渡られた橋の石柱（橋板）を使い、地元の有志により作成された。幸町交番付近に現存



### うめかおるコラム 「奥山榎本」(茶店)

天皇の行幸によって、ますます有名になった「奥山榎本」には、多くの文人・歌人（自称文人・歌人も含め）が訪れ、お願いすると掛け軸に署名したり短冊を置いていったりしたとのこと。ただし、名の売れた人の物は、飾っておくといつの間にか無くなってしまったそうです。

○ 署名

榎本家所蔵資料より